

# 秩父の繊維産業と「歴博展示」を結ぶ

埼玉県立秩父高等学校 青 宏起

## 1. 実施学年および教科・領域

高等学校第3学年 日本史B 選択者 地理歴史科・日本史B

## 2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

### (1) 単元名 歴史へのアプローチ 「歴史の論述」

日本史を戦後史まで終え、大学入試センター試験を終えた後に、家庭研修に入る直前の授業として、以下の内容に関連する「テーマ史」及び「地域史」として扱った。

『詳説 日本史B 山川出版社』の目次より

第Ⅲ部 第8章 幕藩体制の動揺 第3節 幕府の衰退と近代への道 経済の変化

第Ⅳ部 第9章 近代国家の成立 第1節 開国と幕末の動乱 開国とその影響

第2節 明治維新と富国強兵 殖産興業

第3節 立憲国家の成立と日清戦争 松方財政

第5節 近代産業の発展

第10章 二つの世界大戦とアジア 第3節 市民生活の変容と大衆文化

### (2) ねらい

#### ①学習指導要領との関連

「歴史の論述では、社会と個人、世界の中の日本、地域社会の歴史と生活などについて、適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、考えを論述する活動を通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる」とある。また、「内容の取扱い」において「地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるように工夫すること」と「地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを、具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること」に配慮することとある。

#### ②単元の目標

(1) 生徒が、秩父の絹織物の歴史について知りたいと思う。(関心・意欲・態度)

(2) 生徒が、日本の歴史(通史)と秩父の歴史(地域史)との関係を多面的に捉える。

(思考・判断・表現)

(3) 生徒が、パワーポイントの内容や資料を活用して、秩父の絹織物の歴史について、まとめる。

(資料活用の技能)

(4) 生徒が、秩父の絹織物の歴史について、理解を深める。(知識・理解)

### (3) 博物館との関連

①活用方法 非来館型活用(但し、「歴博」を宣伝する目的で、有志の生徒を引率した。)

②活用資料 第3展示室の「村からみえる『近代』」の養蚕に関する展示コーナー  
企画展示「身体をめぐる商品史」の「百貨店の誕生と身体の商品化」

#### (4) 指導観

本校は、秩父地域における唯一の進学校である。生徒の実態は、9割以上が秩父地域に住む。生徒達は、自然に囲まれて育っていて、とても純朴であり、かつ素直である。卒業後はほとんどの生徒が4年制大学へ進学するが、看護系の短大・専門学校に進み看護師を目指す生徒や、公務員などになる生徒などもいる。対象が3年生であるため、受験を意識した学習を期待される中で、導入として、入試問題（産業革命期の繊維産業や女工の労働問題をテーマとした問題）の演習を行った。その上で、3年間の授業の最後に、2時間を使って展開とまとめを行った。

ちなみに今年の3年生は、私自身が学年主任として持ち上がってきた生徒たちで、この選択の授業を受けた生徒は、2講座で約60名である。その中には、公務員として地元の発展に尽くそうとする生徒や将来歴史の教師を目指して大学進学をする生徒もいる。

### 3. 指導計画（5(4)時間扱い）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	3 (2)	<p>○生徒が、入試問題演習として、旺文社「全国大学入試問題正解」の問題に取り組む。</p> <p>①高崎経済大学（2016年前期）大問4番 「江戸末期から明治までの産業の発展」</p> <p>②北海学園大学（2017年）大問3番 「産業革命から大正までの労働問題」</p> <p>③東洋大学（2017年）大問3番 「産業革命と日中戦争」</p> <p>④慶應義塾大学（2017年）大問2番 「明治時代以降の女性の地位」</p> <p>○生徒は、問題を自力で解いたあと、自分で教科書や資料集を使い解答を確認する。まず①②を行い終了した時点で、解説を聞く。そのあと③④も同様に行い解説を聞く。</p>	<p>□2講座の単位数が違うため、週に5単位（日本史B3単位＋日本の文化2単位）のクラスは3時間を使う。3単位（日本史Bのみ）のクラスは2時間で行う。調べる段階ではアドバイスをする。</p> <p>■生徒は、産業革命期の繊維産業や労働問題について、教科書にあるような通史を復習できたか。〈解答用紙・思〉</p>
展開	1	<p>○生徒が、「秩父の繊維産業と『歴博』展示を結ぶ」というテーマのパワーポイントを見て、「秩父銘仙」が誕生するまでの歴史を知る。内容は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに 和服から洋服へ</li> <li>2 絹大市と屋台曳出し</li> <li>3 蚕卵紙と養蚕書</li> <li>4 「秩父銘仙」誕生</li> <li>5 おわりに 「歴博」へ行こう</li> </ol>	<p>□視聴覚機材が使える教室（本校では図書館研修室）にて、パワーポイント〔37ページ〕を使い授業を行う。（パワーポイントの資料は、全員に配布する。）</p> <p>□パワーポイントに写真を多く取り入れる。</p> <p>■教科書の内容や「歴博」の展示を絡ませながら、秩父の繊維産業の歴史を伝えていく。そのことによって日本の歴史（生活史）と秩父地域の歴史との関係性が捉えられたか。〈ワークシート・思〉</p>
まとめ	1	<p>○生徒が、展開の内容や以下のような関連資料を読む。</p>	<p>□関連する資料として、以下の物を生徒に回覧する。</p>

		<p>1 アンケートの依頼について【資料1】 (養蚕農家の変遷などを参考に)</p> <p>2 展開の内容を復習する</p> <p>3 年季傭人契約書を読む【資料2】</p> <p>4 織物工場の女工だった柿境ミヤの略伝 を読む</p> <p>○生徒は、後半の25分を使って、理解した ことを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>1 秩父の織物工場 (昭和5年の 地図)</p> <p>2 繭玉</p> <p>3 写真集「養蚕は今」長谷部晃著 次の物を教室に展示する。 * 銘仙館で、捺染した矢羽根の柄 ■回覧したり、展示したりする資料 を通して、テーマを身近な問題と感 ずることができたか。 &lt;ワークシート・関&gt;</p> <p>■展開・まとめの時間に、生徒が理解 したことを自分の言葉でまとめること ができたか。&lt;ワークシート・技&gt;</p>
発展 1	時間 外	○生徒は、まとめの時間に書いたものを、 考査の時に書く。(事前に予告しておく。)	<p>□学年末考査では、戦後史の問題が7 割、残り3割を導入で解いた問題に関連 した問題を出題する。 ■点数の枠外で、まとめの時間に書いた ものと感想を書くことができたか。 &lt;解答用紙・知&gt;</p>
発展 2	時間 外	○進路が決定した生徒は、アンケートに回 答する。	<p>■祖父母や親戚、近所の人で、繊維産業 に携わった人を探し、その人の体験や記 憶を記録する。さらに自分の感じたこと をまとめることができたか。 &lt;アンケート用紙・知&gt;</p>

#### 4. 実践の概要

##### (1) 展開 パワーポイント (以下「P」と省略) を使った授業の概要

過程 時間	P	●学習内容      ○学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1   3	<p>●この授業の目標 (生徒が考えてほしいこと)。</p> <p>【1】日本の歴史の流れと、「秩父地域の歴史」と がどのように結びつくのか。特に転換期であった、 幕末・維新をどのように生き抜いたのか。</p> <p>【2】秩父には、すばらしいものがある。秩父の人 たちの歩みから、秩父の明日を考えよう。</p> <p>○P3の目次の横に入れた1枚の写真の2階に写 っている白いものが、何であるかを考えさせる。 答え:建物は、かつて秩父の各地にあった養蚕農家。 白いものは「繭」である。</p>	<p>・秩父地域における過疎化の問題 とりわけ山間部の人口減少。若者 の流出という問題がある。</p> <p>・秩父地域は、観光に力をいれて いる。昨年は、秩父の屋台曳き出 しが、ユネスコ無形文化遺産に登 録された。</p> <p>・最盛期には地域に住む7割近く の人が、繊維産業に関わっていた。</p>

<p>展開 1 10 分</p>	<p>4   11</p>	<p>1 はじめに 和服から洋服へ</p> <p>●Pは、歴博の企画展示「身体をめぐる商品史」の中「百貨店の誕生と身体の商品化」及び歴博講演会で、「昭和の初めまで、百貨店が女性の着物の流行を創出した」ことを知った。このことが、「秩父銘仙」の流行にも大きな影響を与えたと考えた。このことを他の文献にもあたってまとめた。</p> <p>○女性の洋装化について、和服に洋服の小物の組み合わせや和服に洋服の柄を取り入れるなど、洋装化が進んでいたが、着物の着用は、戦前においては、主流であった。その理由について資料に対する質問などから考えていく。</p>	<p>Pでは視覚に訴える資料を用いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治末期の三越のポスター</li> <li>・第一次世界大戦後の女優を使ったモダンなポスター</li> <li>・昭和初期の織物工場（秩父）の記念写真【割烹着】</li> <li>・三井越後屋（江戸の絵画）</li> <li>・昭和初期「秩父銘仙」ポスター</li> </ul> <p>P 5 で、大正時代後期に、セーラ一服が女学校の制服として導入され、本校の制服もこの頃から続いていることを関連で紹介する。</p>
<p>展開 2 10 分</p>	<p>12   17</p>	<p>2 絹大市（きぬたかまち）と屋台曳出し</p> <p>●Pでは、近世初めの南蛮貿易、長崎貿易における生糸の輸入から 1715 年の新井白石の「海舶互市新例」による輸入制限で、養蚕が奨励されるなか、秩父地域でも、奨励された史料が残っている。1780 年代には、地域の 4 か所で絹市が行われ、絹仲買によって三井越後屋など呉服店に、絹織物（秩父絹）が売却されている。</p> <p>●現在、秩父夜祭として知られる祭礼の屋台曳き出しは、江戸時代は、霜月の 1 日～6 日に行われ、中心が 3 日であった。これは、絹大市に客を集めるためのイベントといえる。その歴史は、1750 年頃まで遡ることができる。寛政の改革で、屋台の曳き出しが禁止されるなどの危機を乗り越えて、今日まで継承されている。明治になって新暦に直したので、1 か月遅れの 12 月 3 日を中心に行っている。</p>	<p>Pでは、江戸時代の機織りの道具である「いざり機」と「夜祭の屋台曳き出し」の写真を紹介する。</p> <p>P 14 で、1 個の繭から約 1 4 0 0 m の糸がとれたこと。数本の糸を撚ったものが生糸であること。また、1 疋は、幅 38 c m × 26 m の布地で、1 反は、その半分の 13 m の長さで、1 着の着物が作れることを解説する。</p> <p>P 16 では、秩父郡内の米の生産高が充分でなく、他所から買い入れたことなどにも触れる。</p>
<p>展開 3 10 分</p>	<p>18   29</p>	<p>3 蚕卵紙と養蚕書</p> <p>●幕末にフランスで微粒子病が発生したことに伴って、蚕卵紙が輸出されたこと。秩父地域でも、赤平川水系の現小鹿野町両神薄などで、大量に生産していたことを紹介。幕末に生糸輸出が始まると、横浜の生糸商人が、各農家の庭先までやってきて、絹織物ではなく、生糸のまま売ることが求められた。</p> <p>●養蚕書に描かれた「蚕を育てる」様子を紹介。このような日本の養蚕書が、幕末にフランス語訳されたこと。また、蚕を育てることの難しさ、特に餌である桑の量が少ないと、栄養不足で病気になり、桑の量が多いと、桑がカビで、やはり蚕の病気が発</p>	<p>P 18 フランスにおける日本蚕種の輸入量と幕末の日本の輸出品の円グラフの関係を読み解く。</p> <p>P 19 赤平川水系の養蚕紙や繭・生糸の生産を表にまとめたものを掲載。</p> <p>P 20 蚕種農家と養蚕農家の違い（歴博近世展示を一部修正）</p> <p>P 21～25 歴博の展示資料「養蚕秘書」の絵の部分 9 枚と蚕当計を写真に撮って、解説を加えて使用した。</p>

		<p>生すること。蚕を育てるために蚕当計を作り、温度を一定に保つようにしたことや風通しなども細かく気を配ったことを紹介する。</p> <p>●パスツールによって、微粒子病から救われたフランス。日本の座繰りで生産した生糸は、ヨーロッパの生糸より、太く、質が悪かったために、安価で取り引きされた。富岡製糸場に象徴される機械化の波が訪れる。その一方で、座繰の改良でこの問題を乗り切ろうとしたのが、秩父地域であった。秩父事件の背景には、このような問題があった。</p>	<p>P 27 富岡製糸場の建物と絵ハガキ</p> <p>P 28 改良座繰機の写真。改良のポイントは足踏みによって手が自由になる。</p> <p>P 29 座繰製糸と機械製糸（これも改良されて器械製糸」と教科書は表記）。「接緒」について、女工の重要な仕事であったため、解説する。</p>
展開 4 5分	30   34	<p>4. 「秩父銘仙」誕生</p> <p>●明治 20 年ころに、絹織物が復活したこと。背景には、「いざり機」に変わって、高機が導入されたことが大きい。織物工場が各地に創られ、組合体制が、秩父にも生まれ、染料についても研究されるようになる。</p> <p>●1908（明治 41）年 坂本宗太郎による「ほぐし捺染」の発明。動力織機の登場もあって、昭和 10 年代前半、「秩父銘仙」は、最盛期を迎えた。</p>	<p>P 30 高機の写真</p> <p>P 31 秩父縞の写真</p> <p>P 32 野上緋、鋸屋根の織物工場の写真</p> <p>P 33 ほぐし捺染の牡丹の柄(写真)</p>
まとめ 5分	35   37	<p>5. おわりに 「歴博」へ行こう</p> <p>●「歴博」を簡単に紹介。日本列島に人類があらわれた数万年前から 1970 年代までの歴史と文化についての資料（約 9000 点）が展示されている。</p>	<p>P 35～37</p> <p>1 月初めに秩父から、片道 3 時間半をかけて、2 年生 4 名と初任者の先生と私の 6 人で、歴博を訪れた。館内を一通り回って、特に近世の養蚕の展示と近代「産業と開拓」の製糸工場の展示では、生徒に私のやっていることを話し、解説した。写真はその時のもの。</p>

(2) まとめ

過程	時間	●学習内容      ○学習活動	指導上の留意点
導入	5分	●アンケートについて説明をする。	<p>【資料 1】を配布する。</p> <p>何をどのように聞くのかについては、細かく指示をしていない。繊維産業といっても、絹織物業と製糸業では、内容も違う。染色関係の仕事や仲買の間屋や繊維の組合で働いていた人もいる。したがって、身近な人に、生徒に伝えたいと思う「体験」や「記憶」を語ってもらうことが、大切だと思う。</p>

展開 1	5分	<p>●パワーポイントのまとめをする。</p> <p>江戸時代の絹織物が、幕末に始まった生糸の輸出で廃れていったこと。明治20年代に、高機が登場したことで、再び「秩父銘仙」として絹織物が復活したこと。さらに明治41年の解し捺染の発明で、普段着の着物として発展したこと。動力織機の登場により、最盛期を昭和10年代前半に迎えたことを確認する。</p>	<p>明治20年以降も製糸業は、秩父において盛んであったと思われる。 〔この点についても説明する。〕</p>
展開 2	10分	<p>○生徒は、【資料2】を読みながら、女工の契約書について考える。</p> <p>●福嶋ヨネは、明治34年生まれで、明治43年から仕事に出ている。親は、娘を織物工場ではたらかせる契約をしたことで7円を得ている。契約は、七年四か月で、その間の給料が、合計30円。逃亡や契約期間の途中でやめる時は損害弁償をする契約になっている。身元保証人もいる。</p>	<p>生徒にとって【資料2】の文章が、やや難しいので、言葉の意味を説明しながら読む。</p>
展開 3	5分	<p>●資料3として柿境ミヤという、新潟出身の女工について、井上光三郎著『望郷秩父機織唄』（まつやま書房）を使ってまとめたものを配布する。</p> <p>●資料3は、14歳のミヤが、明治41年に新潟から秩父に働きに来たところから始まる。当時の秩父の交通事情や織物工場の女工の労働時間などが分かる。その後ミヤは、一人前の織女となり、秩父で結婚し、秩父銘仙などを織った。昭和恐慌で秩父の買継商が倒産したこと。昭和15年には、七・七禁令で、金銀糸が禁止されたことなど、激動の時代を伝えている。</p>	<p>資料3は、現代文なので、生徒に各自読ませる。紙面の都合で紹介できないが、井上光三郎が、柿境ミヤから聞き取り、まとめたものをさらにA3版1枚にまとめておいた。</p>
まとめ	25分	<p>○展開・まとめの内容から、どのようなことを理解したのかを「歴史の論述」としてまとめる。</p>	<p>学年末考査の時に事前にまとめた「歴史の論述」を思い出して書かせる。感想も書かせる。⇒(3)</p>

### (3)「歴史の論述」及び感想文より

#### ①生徒が、興味・関心を持ったか

\*「もう少し秩父の歴史について深く調べてみるのも楽しそうだと感じました」とか、「秩父の歴史を知ることができたのがよかったと思ったし、面白かったので、また時間がある時に勉強したいと思いました」とか、「秩父の繊維産業について興味がわいた。その繊維産業に関わる女工の人々が苦勞した時代背景などについても、もっと知りたいと思った」というように、この問題に興味を持った生徒がいた。

\*「祖母の実家では、動力織機を使ってやっていたという話を聞いた」、「祖父が養蚕をやっていて、たまに懐かしそうに話をしてくれる」、「私の祖父は昔、養蚕の先生をやっていた」、「祖母も繊維産業に携わっていた」、「親戚の家が、かつて工場をやっていた」というように、祖父母や親戚、近所の人が、繊維産業に携わっていた。これを機会に、さらに詳しく聞いてみたいと書いた生徒がいた。

\*パワーポイントを見た日に、二名の生徒が、さっそく秩父の銘仙館に行って、展示を見てきた。

\*「私の住んでいる所は高篠ですが、地図を見ると、高篠にたくさんの工場があったのだと分かった。今12月3日に行われている秩父夜祭りは、暦が変わる前は11月3日だったのかと始めて知った。」と書いた生徒がいた。

以上のように、テーマが身近であったこともあり、生徒を引き付けることができた。

## ②「歴史の論述」が出来たのか。

2人の生徒が文章化した物を、全文紹介したい。

\*外国からの器械製糸が浸透する中、秩父では従来同様の座繰を改良して使用していた。文明開化で男性の間では洋服が流行したが、女性の洋服が流行するのは戦後であった。なぜなら、和服を推していたデパートのはじまりが呉服店であったからだ。現在、和服は特別な日に着ることが多く、「和服は女性を美しく見せる」という考えが今もなお残っている。秩父銘仙は、くず糸や玉糸を使用しており、花柄など人気が高かった。当時、器械で作られた生糸よりも、座繰で作られた糸は太く、質が悪かったため、輸出されることは少なく、国内で使用されることが多かった。蚕を育てるのは難しくえさとなる桑をあたる量が少ないと死んでしまい、多すぎると桑がカビ、死んでしまった。女工として雇われる場合には契約書を書かされ、賃金が少ない上に、病気などで働けなくなった場合には、弁償しなくてはならない。1日の労働時間15時間に対し、休憩時間は1時間30分と短く、過酷なものだった。(女子)

\*秩父は繊維産業で栄え、多くの住民がそれに携わっていたことがわかった。地域の住民だけでなく、地方からの出稼ぎで、過酷な労働条件を強いられていたこともわかった。たとえ家のためとはいえ、父親に契約を交わされ、出稼ぎを強いられた人が、記録には残っていないくとも、多くいたのだろうと思う。また、逃亡はまだしも、やむをえない状況でも、金の支払いを命じられることがわかった。雇用主側にも、契約を破られるといった点で、不利なことが起こるとしても、厳しすぎる条件だと思ったが、そこまでしなければいけないほど、雇用主側にも余裕がなかったのだろう。都市部が栄え、日本が発展してこられたのは、秩父だけでなく、多くの地方の支えがあったからこそであり、たくさんの人が犠牲を払い、苦しい労働を強いられていたのだと思う。地図に見たくらい、秩父にはたくさんの工場があったけれど、今ではほとんど残っていない。時代の流れとはいえ、秩父にも過酷な生活が存在していたことを、もっと理解しなくてはいけないと思った。(女子)

このように、全体像が見えるようにまとめられた生徒は少なかった。特に後の文章では、「雇用主側にも余裕がなかったのだろう。」と書くなど、良く考察していると思う。多くの生徒が、箇条書きであったり、断片的であったり、うまくまとめることが出来なかった。

## ③生徒は、どう変わったのか

生徒はどう変わったのかということについて、生徒が「歴史の論述」及び「感想」として書いた物から考えてみたい。

\*「教科書や参考書の「松方デフレ」という字は、あまり気にとまらなかったが、貧しかった秩父の人たちが、この政策の影響をもろに受けていたと知ると、急にその歴史用語に現実味を感じた。」(男子)  
「歴史というものが、遠い出来事のように感じてきたのが、そうではなく、我々もまた歴史の流れの中にいるのだということ。」(男子)このような生徒は、「通史」と「秩父地域の歴史」との関連性を考えようとしていると思う。

\*「女性の洋装進出が遅れた由来には、なかなか商業的な面白さを感じた。」(男子)この生徒は、百貨店が女性の着物の流行を、昭和の初期まで創出したことに興味を持ち、面白いと感じたのである。

\* 「女の子（柿境ミヤのこと）の言葉の中には、働きたくない、家に帰りたいといった気持ちは読み取れない気がしました。現在の14歳といたら、まだ中学生であり、本業というとならば勉学になると思います。こうした今では考えられないことが、あたりまえであった時代には、苦しいといった感情等はあるものの、生きていくためにはと諦めというか、仕方がないといったものがあるのかなと感じ、これらを私たちは理解し、次につなげていくことが必要だと思いました。」（女子）この生徒は、貧しい農家の娘にとって、衣食に困らない女工となることが、あこがれることであったことを、資料を読んで感じているのである。歴史を多面的にとらえたり、商業的な面を面白いと感じたり、昔の女工の気持ちを感じ取ったりすることによって、歴史の知識や理解は深まるものだと思う。

## 5. 成果と課題

### （1）成果

- ・対象が、大学の一般入試を直前に控えた3年生ということもあり、入試問題で産業革命などを復習したことは、通史と「秩父地域の歴史」との関係を考える準備として、有効であった。
- ・題材が、秩父地域の繊維産業で、身近な問題であったこともあり、生徒を引き付けることができた。生徒の中には、祖父母などから繊維産業について、聞いた記憶のある生徒がいて、この授業をきっかけに、さらに祖父母などの「体験」や「記憶」を知りたいという気持ちが高まった。
- ・「歴博展示」と「秩父地域の繊維産業」を結ぶために、はじめてパワーポイントを作成し、とても苦労したが、写真を多く取り込んだこともあり、興味・関心を高めることができた。
- ・現在は養蚕農家がほとんど残っていない（秩父市内に1軒）ため、「養蚕秘書」の絵画の紹介に興味を持った生徒がいた。
- ・産業革命期の労働問題について、女工の契約書や女工の小伝（柿境ミヤの話）を読んで、理解を深めることができた。

### （2）課題

- ・授業時間の中で、「歴史の論述」を完成し提出するだけの時間が確保できなかった。
- ・アンケートについては、多くの生徒は大学入試のことで頭が一杯で、回答することが難しいと思った。
- ・「歴博」の近代の「製糸業に関する」展示を活用する準備をしていた。諏訪地方の製糸工場と秩父の織物工場の「女工」の比較など考えたが、具体化できなかった。山本茂美著『あゝ野麦峠』には、「歴博」の天竜川の水車の模型を説明するような文章もあった。水車や蒸気力が、器械製糸の動力であったことを説明するところで、用意してあった写真を使用する方法があったと、後から思った。
- ・近代の「産業と開拓」の展示にある横浜新港埠頭模型も活用したいと思ったが、活用できなかった。
- ・「秩父銘仙」は、玉糸などを使用している。普通の繭を養蚕農家はつくっている。その生糸は、輸出されたはずである。器械製糸は、埼玉県の場合、さいたま市（大宮・与野）など、高崎線沿線に長野県の製糸工場が進出している。一方、秩父にも山梨県方面から器械製糸が入ってきていた。両神（現秩父市）の薄などは、工場が明治の初期に創られている。しかし、改良座繰が秩父では、その中心であった。座繰では、糸を細くできないという問題を書いている本があった。秩父の製糸業の実態が、把握できていなかった。



## 6. 「資料」(まとめの授業で使用した資料)

### 【資料1】

アンケートの依頼(進路が決定している人、進路が決まった人、是非お願いします。)

今後の教材開発のために、協力をお願いします。祖父母や親戚、近所の人で、繊維産業に関わった経験のある人から、証言をもらってください。用紙は自由ですが、A4レポート用紙が良いです。

内容

1. 証言してくれた人の氏名、生年月日、性別、住居地(〇〇市〇〇まで)。
2. 証言してくれた人とあなたの関係。
3. 証言してくれた人の氏名を出して、「教材」として良いか。それとも匿名が良いか。
4. 繊維産業とどのように関わったか。自由に証言を引き出してください。  
(仕事場の名称、場所、内容、働いていた時期については、可能な範囲で聞いてください。)
5. あなたの感想

### 【参考】

[1] 【絹織物】について、最近、さいたま出版会より出版された本に、山口美智子氏がまとめた、『機と秩父』がある。この本は、秩父の織物の関係者53人にインタビューしたものをまとめたもので、貴重な証言集といえる。山口氏は、53人を次のように分けている。「織元」、「捺染・加工」、「整理・製糸」、「職工・女工」、「組合・買継」である。

[2] 【製糸業〔生糸生産〕】については、「製糸工場」が、各地にあり、特に器械製糸は、両神地域で、また盆地一帯で、座繰製糸が明治以降も続いていた。製糸工場の「経営者」、「職工・女工」や養蚕農家だった家庭も多い。

長谷部晃著 『養蚕は今』(新風舎2007年)によると、秩父地方には、10年前までは、養蚕農家がそれなりに残っていた。長谷部氏によると「養蚕農家の戸数変遷」は、以下のようになる。

	秩父郡全体	長瀨町	埼玉県	全国
1930年	10,033	528	100,500	2,208,070
1945年	9,493	519	73,420	1,004,350
1960年	6,281	540	53,290	845,680
1975年	3,034	291	21,850	248,400
1990年	604	89	3,760	44,010
2005年	36	6	(177)	(2,084)

( )内は、2004年

秩父では「両神稚蚕共同飼育所」が2006年廃止になり、稚蚕の人工飼育が秩父から姿を消した。

### 【資料2】 年季傭人契約書(井上光三郎『写真集 秩父機織唄』主婦と生活社より引用)

年季傭人契約書

埼玉県大里郡寄居町百廿番地

戸主 福嶋豊吉

業 福嶋ヨネ

明治三十四年一月八日生

前借

一、金七円也

右之者機業習熟ノ為メ 年期ヲ定メ 貴殿方へ傭人トシテ

御拘へ被下候ニ付 左ノ條項取極メ候事

一、期限ハ 来ル明治五拾年十二月三十日迄 満七ケ年四ケ月

一、給料ハ 初年目金七円 弍年目ヨリ四年迄仕着小遣

五年目金七円、六年目金七円 七年目金九円 計参拾円ト定ム

一、雇主ハ 夏冬兩度仕着トシテ 傭人へ 衣服ヲ給与セラル事

一、傭雇年限中ハ 御家則 嚴重ニ相守リ可申ハ勿論 機業ニ勤勉可致事

一、約定期限内ハ 御暇申出間敷候事

一、萬一逃亡其他 不所業ノ行為有之候時ハ 相当ナル損害弁償可致事

将又ハ半途ニテ 止ヲ得サル事情ニテ 御暇ヲ乞フ時ハ 右同断 損害弁償可致事

右 数條ノ契約ハ 勿論 此他 事情湧出致候節ハ 父兄ハ勿論 保證人ニ於テ引受

貴殿ニ対シ 少シモ 御損毛 相懸ケ申間敷為 後日 契約書依テ如件

明治四十三年九月二十一日

右本人 福嶋ヨネ

実父 福嶋豊吉

埼玉県大里郡鉢形村二百六拾番地

身元保證人 倉林イト

笠原権三郎殿

## 主な参考文献

埼玉県秩父繊維工業試験場・秩父織物変遷史編集委員会編 『秩父織物変遷史』 埼玉県立浦和図書館  
1992年

井上光三郎著 『望郷秩父機織唄』 まつやま書房 1989年

井上光三郎著 『写真集 秩父機織唄』 主婦と生活社 1977年

千嶋壽監修 秩父市・秩父商工会議所編 『やさしいみんなの秩父学』 さきたま出版会 2007年

山口美智子著 『機と秩父』 さきたま出版会 2016年

長谷部晃著 『記録写真 養蚕は今』 新風社 2007年

奥村正二著 『小判・生糸・和鉄』 岩波新書 1973年

小泉勝夫著 『開港とシルク貿易』 世織書房 2013年

竹田敏著 『幕末に海を渡った養蚕書』 東海大学出版部 2016年

島森路子著 『広告のヒロインたち』 岩波新書 1998年

増田美子編 『日本服飾史』 東京堂出版 2013年

国立歴史民俗博物館 図録『身体をめぐる商品史』 2016年